ポケモン犯罪対策警察の毎日

ミロンド2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポケモン犯罪対策警察の毎日

【Ｎコード】
Ｎ９５３７Ｚ

【作者名】
ミロンド２

【あらすじ】
人とポケモンが共生する世界。
そんな世界だとポケモンに関する犯罪もある。それを阻止する機関がポケモン犯罪対策警察。略してＰ．Ｏ．Ｃ．Ｐ！！
そんな機関に入った一人の男のお話！！

プロローグ……？（前書き）

ラック「間違ってこっちの世界きちゃった☆」
作者「いや！やべーよ！！」
ラック「バレット学園日記！！もよろしく～」
作者「宣伝かよ！！」

プロローグ…………？

人とポケモンが共生する世界。
ここではポケモンに対する犯罪がとても多い。そんな犯罪を阻止する機関、“ポケモン犯罪対策警察”（略してP．O．C．P）がある。
この話はその機関に入った一人の男の話。
でもどこだか分からない。
「タージャ…」
「まず署長に会わなきゃ…。」
俺の名前は佐々木（ささき）　理（ことわり）。今日からこのP．O．C．Pに入る新人だ！
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
ちなみに言っておくが大体の機関の人はポケモンを所持している。
今ポケモンの声がしたな…
「おい、何してんだ？理。」
「あ！！」
こいつは俺の親友駿河（するが）　吊橋（つるはし）。俺より先に警察学校卒業してここに入ったらしい。
「吊橋！久しぶりだな！！」
「お前の頭に乗っかってるポケモンはなんだ？」
俺は親友と久しぶりの喜んだ…けど
尻尾は葉っぱの形をしていて尖った鼻…
なんかトカｇ…
「タジャーーー！！」
うおっ！こいつ心読めんのか！？
「この子はツタージャだよ。迷子になってたから保護したらなつかれちゃた。」
「へぇ～…ってそれより！なあ吊橋。署長ってどこ？」
「署長室のことか？今暇だし連れてってやるよ。」

「うむ、では君達５人を今日からP．O．C．Pの隊員として認めよう。ポケモンの所持は自由だ。みんな頑張って犯罪を阻止するぞ！！」

「「「「はいっっ！！」」」」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

「ふぃ～終わった～。」

と、そこへ吊橋がきた。

「お疲れ様。」

「タジャ」

「…なあ吊橋。ポケモン欲しいんだがいい所ない？」

「ポケモン？じゃ一匹育てやすいのあげるよ。そのかわりちゃんと育てろよ。」

「ありがとう！…でそのポケモンは？」

吊橋はモンスターボールを取り出し放り投げた。

「イーブィだ。進化させるのもお前の自由だ。まっ頑張れよ。」

そういって吊橋は去っていった。

「どんなポケモンかな…」

俺はモンスターボールを投げる。

「ブイ♪」

うっっっわっ可愛い！！

「えーとよろしくな…イーブイ。」

「ブイ！」

イーブイは元気よく頷いた。

これからなにが起こるのかは知らないが俺とイーブイなら何でも出来ると思った理である。

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｕｎｅｄ．

第1話　初めての事件（前書き）

「なぁ前回喋るツタージャ来なかったか？」
「きのせいさ。き？の？せ？い☆」
「ま、いいけどよ…」

第1話　初めての事件

某月某曰某曜日…
「いけ！イーブィ！！でんこうせっか！」
「ブィ！！」
「タジャッ」
イーブィのでんこうせっかをよけるツタージャ。
「うーんやっぱりスピードが足りないなぁ～あ、ツタージャありがと。」
「スピード足りないって言われても…」
俺は今日吊橋の特訓を受けていた。
「タ～～ジャ～～～」
不意にツタージャが鳴きだす。
「腹減ったのか？じゃあ今日はこれくらいにして食堂行こうぜ。」
「タジャ♪」
「そうだな。」
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
「Bコースと草ポケモン用フードとサイコソーダ。」
「あれ？サイコソーダ飲むの？」
「僕じゃなくて」
こいつ、といいながらツタージャを指す。
「一杯飲ませたら好きになったらしい。」
「へぇ～…あ、Aコースとノーマル用フード下さい。」
やってきた食事を持って机に移動する。
「「いただきます。」」
「タージャ」
「ブイブィ」
俺達が食事をはじめようとすると…
「お～い。そこの駿河と佐々木、食事食ったら会議室にきてくれ～」

「りょ〜か〜い。」
「え？あ、はい。」
「多分仕事だぜ。気合いいれろよ。」
「初めての仕事か…ドキドキするぜ！！」
俺達は食事を終え、会議室へ向かう。
扉を開けると６人椅子に座っていた。
「遅いぞ。駿河、佐々木。…まぁいい。これから新人５人の初仕事をしてもらう。えーちなみに俺、壱碍（いちがい）　魁（つとむ）と駿河　吊橋は付き添いみたいなもんだ
どんな仕事かというと不正密猟の一団を検挙する仕事だ。多分密猟団の隊員と戦うことになるかもしれないからポケモンの準備をしてくれ。質問はあるか？」
みんな手を上げない。
「いないようなら、作戦開始だ。」
「ＯＫ。さて、行くぞ。」
「ええ？いきなり…。う〜ん。」
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
「何故こうゆう事になったんだろう…」
俺は一人、ミネズミの集団に囲まれていた
「いや、作戦どうりにならないね〜…。ねぇミネズミ君。なんもしないから逃がしてくれない？」
「シャーッッ！！」
「無理か〜。この数じゃイーブィだけじゃ倒せないし。」
さて、どうするかね。と俺は呟く。
「竜の波動。」
「グギャアッ！！」
聞き慣れた声と聞いたことない声。
「吊橋！ってそのポケモンは？」
「ツタージャじゃちょっときついしね。戦闘用ポケモン。こいつはカイリュー。」

「へぇ～すごい威力だね。」

「さて…帰るぞ。」

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

「君達の頑張りを称えここに賞を送る。」

今俺達は賞をもらっている。ちなみにこの場に吊橋はいない。それは…

「めんどい。」

それを報告すると…

「あいつだもん。」

異常過ぎる。

でもこの事件でやっぱり仲間を作ったほうがいいと思った。

Ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｕｎｅｄ・・・

第1話　初めての事件（後書き）

佐々木　理
性別…男
所持ポケ…イーブィ
駿河　吊橋
性別…男
所持ポケ…ツタージャ、カイリュー、？、
？、？、？

第2話　可愛いと強いが基準

「ああ～暇だな～。」
俺ーー佐々木はあくびをする。
「ブィ…」
俺のパートナーもまた呟く
「見回りも終わったし、書類もやったし…
だけど寝るにも早いしなぁ～」
と、そこで部屋のチャイムがなる。
「ブィブィ？」
「タージャ。」
こいついつの間に入ってんだ！？
「僕もだぜ。」
「おい！！なんか言えよ！」
「だからチャイムならしたじゃん。」
「鍵も開けてないのによ…。」
それより！、と吊橋は立ち上がり
「お前のポケモン、イーブィだけか？」
「え？うん。俺とイーブィなら何でもできるさ！！」
「ブーイ♪」
「馬鹿。」
「タジャ…」
哀れみを込めた目でこっち見るなっ！
「ゴーストタイプにどう対処すんだ？」
「…。……！」
「3点リーダ多いわ。てか今頃かよ。」
「どうしよう…」
「はぁ…外行くぞ。準備しろ。」
「え？何しに？」

「決まってんだろ。ポケモンを捕獲すんだよ。（ちなみに読者の皆さん。ボールでの捕獲しない場合、犯罪ｄｅａｔｈ☆）」
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
～只ノ森～
「ゴーストタイプは悪タイプが有効だ。でもここらじゃいないから…。」
「タージャ」
「ピカ」
「ブィ」
「ん？」
「ピカチュウの声か？」
「ピーカ、ピーカ！！」
「かわえぇ…。よし！捕まえる！！」
「ピカ？」
「いけー！モンスターボール！！」
ヒューーーン…ポテッ
モンスターボールはピカチュウと２ｍ離れた所に落ちた。
ノーコン、ｎｏ　ｃｏｎｔｒｏｌである。
「よけられた！」
しかも自覚無し。
「おい理。２つ言う。一つ目、捕獲は弱らせてからやるもんだ。２つ目、そのノーコンどうにかしろ。」
「そうか。…いや俺はノーコンじゃないぞ」
「い？い？か？ら？は？や？く？し？ろ！」
「…ま、いいや。いけ！イー…」
「ピーカ♪」
ピカチュウはモンスターボールをいじって遊んでいる。…そして
「ピカ～～！？」
モンスターボールに吸い込まれた。
コトコト、コトコト、コトコト、ピキーン

やったー！ピカチュウをゲットしたぞ～！
「…あら？」
「タジャ…」
「…V」
「ピースって意味か？イーブィ。」
「ピカチュウゲットしたぞー！！」
「卑怯な感じはするが…」
「タジャタージャ」
「これも…ありだろ。」

To be continued・・・

第2話　可愛いと強いが基準（後書き）

「タジャタジャタージャ！」
「…すまん、もう一回言ってくれ。」
「タジャタジャタージャ！（サイコソーダ欲しい）」
「こいつ…」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9537z/

ポケモン犯罪対策警察の毎日

2012年1月6日18時48分発行